

2023年度

# さかい福祉と介護の 実践発表会

令和5年12月9日(土)

関西大学 堺キャンパス  
〈オンライン同時開催〉

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会



# 2023年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

令和5年12月9日(土)

関西大学 堺キャンパス オンライン同時開催

## 第1部 (13:00-13:30)

挨拶

堺市 健康福祉局 長寿社会部 部長 佐野 庸子

堺市老人福祉施設部会 会長 西尾 正敏

## 令和5年度堺市働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰 表彰式

(令和5年11月13日(月)実施)

### 【事業所表彰】

法人名	事業所名
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホーム ハートピア堺
社会福祉法人 美木多園	特別養護老人ホーム 美樹の園
株式会社 MediGo	歩行リハ栄養センターリハビリGOwalk堺鳳

## 第2部 (13:30-16:00)

講評:種橋 征子 教授 (関西大学 人間健康学部)  
植田 紀美子 教授 (関西大学 人間健康学部)

### 高齢分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 あすなる会 西第2地域包括支援センター	齋藤 祐里	コロナでも諦めない! 企業や専門職と繋がり、地域の集いの場をオンラインで工夫し維持したことで、目標が見えてきた事例
演題2	社会福祉法人 堺福祉会 ハートピア堺	西尾 久美子 西 竜児	コロナ禍後のハートカフェ(認知症カフェ)に求められること
演題3	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	西尾 正敏	「もっと部下に自分を語ろう!」 (次を担う職員の育成に対する取組)
演題4	社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家	高取 幸一郎 今石 卓弥	他部署間交流を通じて (~利用者のできる力を大切に~)
演題5	社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘	福井 みのり 雲川 敦之	多職種とご家族様との連携で繋ぐ希望する生活 ~あと一歩!寄り添い考えて!~
演題6	社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もすの音	中川 真緒	脱ミキサー食! やわらかい食事への挑戦!
演題7	株式会社ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが	土谷 雅弘 生月 かほる 山口 阿紀子	その人らしく過ごすための関わりとは?
演題8	株式会社なないろ・ひといるケアセンター ひといるケアセンター	姫野 聡美 姫野 孔志	在宅で充実した支援を送るために。 ~在宅生活の社会資源の活用と連携~
演題9	社会福祉法人 稲穂会 特別養護老人ホーム やすらぎの園	部谷 大輔	2023スプリングフェスタin稲穂会
講 評			

### 障害分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの	井上 恵輔 岩本 慶彦	利用者様と考える日中活動及び支援 ~笑顔いっぱい個性に合わせた取り組み~
演題2	社会福祉法人ライフサポート協会 はびな	井上 真人	やりたい!!を伝える表出コミュニケーション支援
演題3	株式会社ジニア ジニア	高橋 祐樹 杉野 弘太郎	就労への課題と、ジニアがめざす「好き」と「興味」を 価値に変換するわくわくするキャリア形成について
演題4	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆「あけぼの」	松本 晃典	利用者様の「やりたい」を見つける支援
演題5	株式会社inC インク	梶 兼	「私は人と話すのが怖い」 対人恐怖を抱える方の支援ストーリー
講 評			

# 目次

## 《高齢分野》

テーマ：地域との連携

**コロナでも諦めない!企業や専門職と繋がり、  
地域の集いの場をオンラインで工夫し維持したことで、  
目標が見えてきた事例** 1

社会福祉法人 あすなる会 西第2地域包括支援センター

テーマ：その他（認知症カフェ）

**コロナ禍後のハートカフェ（認知症カフェ）に求められること** 2

社会福祉法人 堺福社会 ハートピア堺

テーマ：人材育成・OJT

**「もっと部下に自分を語ろう！」  
（次を担う職員の育成に対する取組）** 3

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：人材育成・OJT

**他部署間交流を通じて（～利用者のできる力を大切に～）** 4

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家

テーマ：その他（個別ケア）

**多職種とご家族様との連携で繋ぐ希望する生活  
～あと一步!寄り添い考えて!～** 5

社会福祉法人 上神谷福社会 特別養護老人ホーム 槇塚荘

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

**脱ミキサー食!やわらかい食事への挑戦!** 6

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もずの音

テーマ：認知症ケア

**その人らしく過ごすための関わりとは?** 7

株式会社ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが

テーマ：在宅生活の充実

**在宅で充実した支援を送るために。  
～在宅生活の社会資源の活用と連携～** 8

株式会社なないろ・ひといろケアセンター ひといろケアセンター

テーマ：社会（地域）貢献

**2023スプリングフェスタin稲穂会** 9

社会福祉法人 稲穂会 特別養護老人ホームやすらぎの園

## 《障害分野》

テーマ：創作的活動や生産的活動

### 利用者様と考える日中活動及び支援 ～笑顔いっぱい個性に合わせた取り組み～

11

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの

テーマ：その他（意思決定支援）

### やりたい！！を伝える表出コミュニケーション支援

12

社会福祉法人ライフサポート協会 はびな

テーマ：就労への支援

### 就労への課題と、ジニアがめざす「好き」と「興味」を 価値に変換するわくわくするキャリア形成について

13

株式会社ジニア ジニア

テーマ：創作的活動や生産的活動

### 利用者様の「やりたい」を見つける支援

14

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

テーマ：地域との連携・就労への支援

### 「私は人と話すのが怖い」 対人恐怖を抱える方の支援ストーリー

15

株式会社inC インク

# 《高齡分野》



テーマ：地域との連携

# コロナでも諦めない！企業や専門職と繋がり、地域の集いの場をオンラインで工夫し維持したことで、目標が見えてきた事例

社会福祉法人 あすなる会 西第2地域包括支援センター  
看護師、社会福祉士、介護支援専門員：齋藤 祐里

## ●事業所・サービスの紹介

西第2地域包括支援センター

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

わが圏域には、地域住民の助け合いの場になっている多くの活動が行われていた、コミュニケーションスペースAがある。包括も後方支援として、連携し交流をとる中で個別ケースの相談や、情報提供などをしてきた。しかしコロナ禍の影響で軒並み中止を余儀なくされ、これまでの繋がりをとることが難しい状況となった。そのため、閉ざされた繋がりと交流の機会の復活への課題に向き合った事例。

### 【具体的な取り組み】

社協の日常生活圏域コーディネーターと、日ごろから包括とつながりのある様々な企業や、社会福祉法人の方と職種を超え協力してもらい、オンラインで集える場を作り、継続できた事例。オンラインが苦手な方もサテライトを増やして、やってみることを検討する事をやってみるなど、慣れないオンラインも、企業による個別接続講習から段階的に体験しながら試行し、見える化で、新しい目標も見えた事例。

### 【活動の成果と評価】

繋がりを諦めない思いと、地域のやりたいという主体性を引き出し尊重する姿勢。また、応援するための社会資源を情報提供できる体制と環境を整え、繋ぐ力として、日頃から様々な機関と顔の見える関係作りをし、足を運び、地域密着で職種を超え、それぞれの強みを把握して活かし、可能性を模索する事が重要で、時間と共に形を変えながら作っていける事を知ることができた。

### 【今後の課題】

もともと少人数で気兼ねなく悩みなどを話しあったり応援しあう事をコンセプトにしていたこともあり、サテライトでD薬局とE事業所で行った場合、お客様にも立ち寄りが見られたりするので、個人情報の事もあったり、込み入った悩みや相談などをしにくかったりする課題も見えてきた。しかしメリットとしてスペースが広く体操などイベント的に行う際には非常に心強い環境である事も知れた。小規模の通常のオンラインサロン継続を大事にしつつ、中規模のイベント型のオンラインとしてサテライトの協力も得ながら、体験や講座をメインにしたものを開催することも案として出てきた。これまでAに参加したことのない方でも気軽に参加でき、遠方の方との交流も夢に企画もできたらと目標ができた。

テーマ：その他（認知症カフェ）

# コロナ禍後のハートカフェ（認知症カフェ）に 求められること

社会福祉法人 堺福祉会 ハートピア堺

主任介護支援専門員：西尾 久美子／介護支援専門員：西 竜児

## ●事業所・サービスの紹介

第1土曜日の10時から12時で年9回開催しています。各部署を横断する形の認知症委員会のスタッフと、介護に携わっていた家族さんや地域のボランティアの方で運営し、音楽や太鼓等の演奏に来てくださるボランティア様も協力してくださっています。障害作業所の授産品販売等、多機関とのつながりがあります。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

コロナ禍で途絶えた認知症カフェで認知症の当事者・介護者・地域住民が集い、つながりを再構築する。

### 【具体的な取り組み】

ハートカフェ（認知症カフェ）はコロナ禍となり、対面での開催ができない状況となったが、これまでの参加者・ボランティア様との繋がりをもてるよう、カフェ通信の発行、Zoomによるオンラインカフェの開催を行った。対面での再開に向けてボランティア様との打ち合わせを行い、令和4年10月より、対面で再開している。

### 【活動の成果と評価】

- ・コロナ前と比べると参加者が増え、毎月新しい参加者がいる。この3年間に認知症に対し認識が変化し、早期に専門職への相談をしようという雰囲気を感じる。本人・家族に介護サービスの利用に不安や迷いがあるがカフェに参加することで、介護経験をされた家族の話・専門職からの助言などにより、その後、介護サービスにつながるケースもある。
- ・また、男性介護者同士で日頃の悩みを話せる場、また、認知症介護の経験をされた男性からの話を聞くことで、在宅での認知症ケアの参考になっているのではないと思われる。
- ・繋がりを意識してカフェ通信を発行していたこともあり、カフェのボランティア様は継続して協力してくださっているが、音楽のボランティア様とはこれから連絡を取っていく段階である。

### 【今後の課題】

- ・地域住民やご家族で認知症カフェに参加したい気持ちはあるが、家族自身、参加に迷っているという声も聞くので、参加しやすい環境を作ること。
- ・認知症カフェに興味のある方への新しいボランティア活動などで協力者を増やすなど、地域住民への理解をすすめること。

### 【参考資料など】

- ・年間予定表・毎月の案内・カフェ通信

テーマ：人材育成・OJT

# 「もっと部下に自分を語ろう！」 (次を担う職員の育成に対する取組)

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園  
理事長 兼 施設長：西尾 正敏

## ●事業所・サービスの紹介

当施設は1984年に定員50名で開設した施設です。平成26年までに2回増床し、入所114名とショートステイ16名で運営しております。同じ建物内にはデイサービス、担い手登録型デイサービス、ケアプランセンター、診療所を併設しています。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

最近、事業所で職員に対し「何でこんなことをするんだ」とか「何を考えているかわからない」などと愚痴をこぼすことが増えてきました。原因として、コロナ禍でオンライン会議が増え、忘年会などの集まりもなくなり職員と直接話す機会が減っている事や、職員と関わる機会が事故や業務の不手際が発生した時、ミーティング中の短い時間に限られ、コミュニケーションが不足しているからではないかと感じていました。

### 【具体的な取り組み】

不足しているなら増やせば良い。職員と双方向のコミュニケーションを取る機会と、法人や施設運営に対する想いを直接職員に伝える研修会を企画しました。対象は施設で次を担う職員（主任・副主任などの中間管理職）としました。研修会は月に1回／60分で、6月～翌年3月の全9回。テーマは日頃から職員に対し、よく指導している事項や業務に対する姿勢、問題の解決方法など。一方通行の研修ではなく、職員が考え意見を交わす機会を設けるように配慮しました。

### 【活動の成果と評価】

具体的な効果はまだまだこれからですが、受講した職員からは「施設長の考えていることがわかった気がする」、「話を聞いて安心しました」、「聞いた話を実践していきたいと思います」などの言葉をもらいました。以降、業務に対し前向きな姿勢が認められるようになったように感じています。  
また、研修を自分で企画することで日頃の指導内容が整理でき、職員から思いがけない問いかけや返答を聞くことで、職員に対する理解が進みました。

### 【今後の課題】

管理者が研修内容を自分でまとめ、資料を作成し、シリーズ化して当日話すということで、準備などの負担が高いために、開催頻度を上げることができません。

### 【参考資料など】

機長のマネジメントーコックピットの安全哲学「クルー・リソース・マネジメント」  
村上 耕一 (著), 斎藤 貞雄 (著) 1997/2/1

テーマ：人材育成・OJT

## 他部署間交流を通じて (～利用者のできる力を大切に～)

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家  
生活相談員：高取幸一郎／介護職員：今石 卓弥

### ●事業所・サービスの紹介

ふれ愛の家の特別養護老人ホームは入所(84床)とショートステイ(16床)、デイサービスと居宅介護支援事業所と地域包括支援センターを併設しています。  
職員は10代から70代の職員、そしてベトナムの職員で年齢や国籍は関係なくチームワークを大切にしながらチーム一丸となり介護サービスを提供しています。  
また、リーダーを育成するジェネレーション・プロジェクトチーム(以下GP会)を発足し業務の見直しや職員育成を実施しながら、利用者、職員ともに「ここに来て良かった!」といってもらえる施設をめざしています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

新型コロナウイルス感染症により、知らず知らずのうちに優先順位が感染症対策のままになっており、業務優先になっていることが課題と気づきました。

#### 【具体的な取り組み】

(認知症の利用者が多いフロアでの取り組み)  
課題を抽出するために「利用者本位のケアを考える」を目標に入所職員はデイサービスへ体験にいく他部署間交流を行いました。  
各部署の職員が他部署の業務につき体験をすることで、自分の部署で見直すべき事はないか、活かせる事はないかを考えてもらうきっかけにしました。  
GP会メンバーがPDCAサイクルで利用者本位のケアを考えるための仕掛けづくりをしました。  
・『水分補給は利用者さんに選択してもらう』をテーマにモニターの利用者を選定し取り組んでみました。

#### 【活動の成果と評価】

他部署間交流は職員の意識改革のきっかけづくりに有効でした。  
「利用者本位のケアを考える」ことを目標に取り組むことで、特養でも自立支援や自己決定支援の必要性を改めて考えることができました。

#### 【今後の課題】

今回の取り組みは現在進行中です。入所部門で認知症の方が多いフロアで取り組むことができました。デイサービスからも入所への業務体験をして実施中です。今回はきっかけづくりであり、今から利用者本位のケアをめざすことができるように、他部署間交流を実施していこうと思っています。継続していくことでGP会メンバーの問題解決能力が向上していくことも目標にしていきたいと思っています。今後もケアの質の向上と共に職員の育成に取り組んでいきたいと思っています。

テーマ：その他（個別ケア）

## 多職種とご家族様との連携で繋ぐ希望する生活 ～あと一歩！寄り添い考えて！～

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘  
介護職：福井みのり／介護職：雲川 敦之

### ●事業所・サービスの紹介

堺市南部の泉北ニュータウンにある特別養護老人ホームです。従来型とユニット型があり、73名の入所と10名のショートステイの方にご利用いただいています。デイサービスも併設しており、地域の皆様に施設になじんで頂き、ショートステイ、入所へと段階を踏んで利用していただくことで、双方が信頼しあえる関係作りをめざしています。利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重し、その人なりの生活支援を基本とした介護を実践しています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

大好きだった食事を摂らなくなり寝たきりの時間が増えてきた、「物を盗られた」と何度も繰り返し話されるなど、介護スタッフだけでは解決が難しかった課題について、多職種やご家族様と連携を深めることで、今までよりも利用者に寄り添える介護の実現をめざした。

#### 【具体的な取り組み】

会議のやり方・多職種との連携・ご家族様との繋がり強化など、ユニットケアの見直しに取り組んだ。「このケースはここまでしかできない」「沈静化するまで様子を見守ろう」といった固定観念を見直し、「多職種と連携することで解決の糸口を見いだそう!」「ご家族の協力を得て希望にもう少し寄り添ってみよう!」とスタッフ全体の考え方や行動を変えていき、利用者の生活改善や不安解消に取り組んだ。

#### 【活動の成果と評価】

多職種と連携し時間に縛られない食事介助の実践や、ご家族の協力を得ながらの医療的介護を行うことで、食事量が戻り、寝たきりの状態から散歩やレク参加ができる生活を取り戻せた。ご家族様と意見交換し知恵を出し合うことで「物を盗られた」といった不安の訴えが減り、穏やかに過ごせる時間が増え、スタッフとの信頼関係が深まった。

#### 【今後の課題】

利用者一人ひとりのニーズは多種多様で、認知症の進行によって大きく変化します。ご家族との連携も状況変化や日々の暮らしぶりを伝える連絡を怠れば、協力を得難くなります。また、施設全体が同じ思いで介護を提供しなければ、寄り添った介護の維持はできません。今後も利用者の希望を聞いたり、察したりする取組みを継続し、ご家族の思いを反映できる繋がりを強化しながら、利用者の生活の質の向上をめざした、寄り添う介護を実践していきます。

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

# 脱ミキサー食！やわらかい食事への挑戦！

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム大仙もすの音  
管理栄養士：中川 真緒

## ●事業所・サービスの紹介

平成24年12月に開設。特養80床、ショートステイ20床、デイサービス、ケアプランセンターを併設しています。法人全体で行う社会貢献事業の一環として、平成18年より「認知症予防自立支援推進室」を立ち上げ、非薬物療法による認知症予防について、大阪大学と協同研究を実施しています。食事においては、直営での給食提供を行い、ご利用者の目の前で調理を行う食事会の実施やご当地メニューにも取り組んでいます。また、平成30年からは酵素を使用した「やわらか食」の提供に挑戦中です。外部施設への見学や試作を行い、一部食材において提供を行うなど、日々ご利用者が食べやすい給食提供ができるよう努めています。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

ミキサー食の提供を行っていましたが、量が多い、メニューの内容が分かりづらい、肺炎での入院が多いといった課題がありました。  
ご利用者にとって良い食事形態での提供を行いたいと考え、ムース食の導入に取り組みました。

### 【具体的な取り組み】

- ①調理方法の検討（提供量や調味の手段、提供手順等を厨房職員で検討）
- ②施設内での周知、試食会の実施
- ③ご利用者への提供と改善

### 【活動の成果と評価】

- ①ご利用者、ご家族から食べやすい、見た目がよく何を食べているか分かりやすいと好評であった。
- ②職員向けに取り組み内容の周知や試食会を行ったことで、スムーズに導入することができた。
- ③介護士に評価シートを記入してもらうことで、調理師に提供時の状態が伝わりやすく、改善につなげることができた。
- ④肺炎入院者数の減少。

### 【今後の課題】

- ・味付けや盛り付けがワンパターンになってきている
- ・ムース食が食べづらい方に対する食事形態の検討
- ・その他の食事形態の改善

テーマ：認知症ケア

## その人らしく過ごすための関わりとは？

株式会社ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが  
施設長：土谷 雅弘／生活相談員：生月かほる／介護職員／山口阿紀子

### ●事業所・サービスの紹介

平成21年11月営業スタート。施設長自身が生まれ育った南区の旧村に位置して、自前の畑を隣に構えている。四季折々、自家製の野菜の成長（はつが）に刺激を受けることができる。また、静岡の増田スリーA方式を採用した認知症進行予防プログラムを展開。スリーAとは「あかるく あたまをつかって あきらめない」の頭文字。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

本人がしたいことに取り組めるよう、支援者としてどう関われば、どのような変化をきたすことができるか？

#### 【具体的な取り組み】

デイサービス利用3名の方に対して、興味関心シートの記入内容に基づき、各々の関わり方を意識しながら、実際に取り組んでもらうようにする。Aさんは園芸に関心が強く、非常に物知りである。実際、鉢植えや畑の作物に視線を注ぐことが多い。Bさんは和裁が得意であり、デイサービスで使うお手玉などを作成してもらうようにする。Cさんは美術の先生をされていたこともあり、絵を描きたいと言われるため、絵画作成に取り組んでいただけるように働きかけた。

#### 【活動の成果と評価】

各自、好きなことに取り組めるように、状況設定を行った。例えば、花の成長を見届けたり、栽培の仕方についての会話量が増えた。出来上がったお手玉を実際に手に触れる機会が持てた。昔上手くできていたことが思うようにできないことに対しての歯がゆさも本心ではあるだろうが、また再びできたことに対する喜びを共感し、ひと時の自信を取り戻すきっかけになったのではなかろうか。

#### 【今後の課題】

個々の方の情報収集をするとともに、その情報を元に尊厳の保持に努め、できることへのサポートを行う場所として、私たちのデイサービスはその存在意義を発揮できると思われる。今回の3名だけでなく、利用者の方全員に対し、相手に合わせた関わり方を大切に、パーソン・センタード・ケアの実践が求められる。今後も、介護度を上げないケアを追究するため、認知症進行を先送りする関わり方の探求およびその実践に努めたい。

#### 【参考資料など】

・興味関心シート、『認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソン・センタード・ケア』鈴木みずえ著、池田書店2017

テーマ：在宅生活の充実

## 在宅で充実した支援を送るために。 ～在宅生活の社会資源の活用と連携～

株式会社なないろ・ひといろケアセンター ひといろケアセンター  
介護福祉士：姫野 聡美／理学療法士：姫野 孔志

### ●事業所・サービスの紹介

今年の1月に立ち上げた訪問介護事業所です。  
若い人が福祉の仕事に就いて離職することが多いことが気になったため育成に力を注ぎ、在宅で過ごしたいと希望をされる方達の意向に沿うような事業所をめざしています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

常に感じていることは、在宅においての他職種とのチーム連携不足です。介護職員は利用者様と一緒に過ごす時間が長く、多くの情報を持っているため、基本的にはケアマネジャーが中心となり連携を図っていました。しかし、その情報を用いて他職種と介護職員との間で連携をとることが難しい傾向にあると感じています。その中で生産性のあるチーム連携をとることを考え取り組みました。

#### 【具体的な取り組み】

- ・他職種の全ての方に申し送りノートの詳細に記載してもらおう。気になることがあればケアマネジャーに報告。
- ・身体的介助方法を介護職員にリハビリから指導を行う。指導を受けたことを申し送りする。
- ・ケアマネジャーと共に各他職種の人に連絡を細かく入れる。

#### 【活動の成果と評価】

現状、担当者会議をすることが難しくケアマネジャーを通して各職種で意見が出た時は連絡を取ってもらうようにしていました。また、連絡ノートの活用もするようにして他職種の連携を図っていました。ケアマネジャー、他職種と連携し、各職種でケアできることを継いで行うことで利用者様の身体状況の増悪軽減などを図れました。チーム連携の良い現場は利用者様のADL、QOLの向上に繋がると確信を持つようになりました。

#### 【今後の課題】

在宅で充実した生活を送る為には利用者様と介護職員、ケアマネジャー、他職種が共通の目標を持ち連携をとることが必要となります。そうすることでADL、QOLの維持・向上することができると考えています。また、医療従事者との密な連携をとる為にも介護職員の向上は必須になると思いました。

テーマ：社会（地域）貢献

# 2023スプリングフェスタin稲穂会

社会福祉法人 稲穂会 特別養護老人ホーム やすらぎの園

介護職：部谷 大輔

## ●事業所・サービスの紹介

特別養護老人ホームやすらぎの園

・特別養護老人ホーム(80床) ・短期入所事業所(20床) ・通所介護事業所(定員34名)

・居宅介護支援事業所 ・訪問介護事業所

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

コロナ前には施設を開放し介護者教室や認知症カフェを開催、また地域に出向き相談会などの活動を行っていたが感染者数の増加と共に活動も徐々に減少、約3年活動ができなかった。入居者様と家族様、ボランティアなどの地域と施設の繋がりもなくなり再開を考えていた中、5類への引き下げを機にフェスティバルを開催する事となった。

### 【具体的な取り組み】

令和5年5月21日(日)フェスティバルを開催。子どもから高齢者まで多世代に渡り多くの方に来てもらうため、近隣の総合病院や消防局、福祉用具、障害者施設、移動販売事業など、他企業にも依頼し協働して相談ブースや体験会、心肺蘇生の講習、AEDの操作の実演などを行った。その他ボランティアによるハンドマッサージや金魚すくいなどの屋台を呼び、子どもたちが遊べるブース、バザーを開催した。各店舗では入居者様に販売員として入ってもらい地域とのつながる場を作った。

### 【活動の成果と評価】

当日約300名と多くの方に来てもらうことができた。地域のほか、法人全体で発信を行ったことで、当日は系列のこども園の園児や施設職員の家族、また入居者様の家族様の来園も多かった。販売員としてブースに入った入居者様も活躍され、地域の方と繋がり生き生きとされていた。今回協働した企業やボランティアからも参加できて良かったと評価をもらい、横の繋がりを作ることができた。

### 【今後の課題】

今回開催してみて細かい課題はあり次に繋げていきたい。フェスティバル後まだ活動の再開はできていない。形を変えた状態でも活動をすれば今回のように地域とつながることができると実感できたため、今後も様々な方向性を考え、地域活動を続けることで施設の敷居は低くなり、普段の生活から何かあった時には「やすらぎの園に行けば」と思ってもらえる様になると考えている。

### 【参考資料など】

社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園 ホームページブログ参照



# 《障害分野》



テーマ：創作的活動や生産的活動

## 利用者様と考える日中活動及び支援 ～笑顔いっぱい個性に合わせた取り組み～

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの

支援員：井上 恵輔／支援員：岩本 慶彦

### ●事業所・サービスの紹介

周辺に公園や緑道など、緑の多い環境にある利用定員20名の生活介護事業所です。作業、レクリエーション活動、調理実習の他、近隣公園への散歩や、様々な場所への外出活動をみんなで楽しんでいます。カトリア班では笑顔いっぱいの空間で、一人ひとりの個性にあった作業を行っています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

- ・利用者様とのミーティングを実施し、施設で取り組む活動内容を一緒に考えていただき、日中活動や週1回の外出活動などを行うとともに活動を通してより良い支援を行う。
- ・障害者施設の存在と意義を広く知っていただくために話し合いを重ね、内職だけでなく皆様に喜んでいただける商品を作ろうと考え、コサージュの自主製作に取り組んでいる。

#### 【具体的な取り組み】

- ・ミーティングでは、利用者様一人ひとりに絵カードや写真を使用し、外出先や内容、調理実習のメニュー、お弁当メニューを利用者様の意思で決定していただくなど、自己決定・自己選択をする。
- ・地域での買い物や近隣の清掃を利用者様とともに行うなどの活動を積み重ね、地域との交流を図る。
- ・様々な分野（外出・文化・芸術・音楽・スポーツ・創作など）の活動を経験・体験し、地域にとけこんでいくとともに利用者様の興味、関心の拡大、心身のリフレッシュをめざす。
- ・季節に合わせた行事を行い、活動を通して四季を感じていただく支援を行う。
- ・試行錯誤を重ねた末、1枚の布でバラの花を完成させる技術を会得してオリジナルのコサージュが完成した。

#### 【活動の成果と評価】

- ・利用者様の思いや考えなどを汲み取り、実施する日中活動に関わりを持ち、利用者様と支援員と一緒に活動に取り組み、楽しむことができています。
- ・2011年には原山台中学校の卒業生にコサージュを着用していただき、校長より「今年は1人もごみ箱へ捨てることなくコサージュを大切に持ち帰っていました」との言葉に製作の意義を新たに知ることができた。2018年より大阪商業大学堺高等学校の卒業生に着用していただき、翌年には当職員が学校内で製作レクチャーを行い現在カトリア班のコサージュ製作は家庭科の授業にて1年生が卒業生に向けて製作するという仕組みができた。

#### 【今後の課題】

- ・利用者様の興味、関心ごとは何か、どのような思いがあるかなど考えを把握し、今後の日中活動を実施するとともに、より良い支援につなげていく。
- ・今後も教育機関並びに地域の方々にコサージュを通じて広く存在を知っていただけるよう活動をしていく。

テーマ：その他（意思決定支援）

# やりたい!!を伝える表出コミュニケーション支援

社会福祉法人ライフサポート協会 はびな

支援員：井上 真人

## ●事業所・サービスの紹介

「はびな」は、18歳以上の障害のある方々が利用しています。

- 一人ひとりの個性を大切にします。
- ご本人の強み（得意）を活かして社会との関わりをつくります。
- 自身の思いを相手に伝える方法について支援します。
- さまざまな経験を通して、好きなことをみつけ、生活を充実できるようにお手伝いします。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

さまざまな場面で、絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS®）をつかって、自発的に自身の思いを相手に伝える方法について。

### 【具体的な取り組み】

好きなもの（嫌いなもの）を情報収集する。  
絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS®）をつかって要求してもらう。  
好きなもの（嫌いなもの）を手渡す。  
絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS®）をつかって、コミュニケーションできたときに褒める。

### 【活動の成果と評価】

絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS®）をつかうことで、適切な人との関わりを身につけることができた。  
自発的に自分の欲しいものを要求できるようになった。  
離れているスタッフにも、絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS®）をつかって要求できるようになった。  
困った場面で、相手に対して「手伝って」を表出できるようになった。  
短い文章を絵カードでつくって、欲しいものを要求できるようになった。

### 【今後の課題】

色や形、たくさんやすこし等の量を表す副詞の絵カードをつかって、拡張された表出をできるようにしていく。  
「何が見える?」「何が聞こえる?」等の質問に答えたり、「見えます」「聞こえます」「です」等の述語の絵カードをつかって文章をつくっていく。

### 【参考資料など】

ロリ・フロスト、アンディ・ボンディ、門眞一郎（訳）（2006）『絵カード交換式コミュニケーション・システムトレーニング・マニュアル第2版』ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン

テーマ：就労への支援

# 就労への課題と、ジニアがめざす「好き」と「興味」を価値に変換するわくわくするキャリア形成について

株式会社ジニア ジニア

管理者：高橋祐樹／代表取締役：杉野弘太郎

## ●事業所・サービスの紹介

2023年8月1日よりジニアは就労移行支援事業所とB型事業所を併設した多機能型事業所として事業展開しております。ジニアは2021年8月から操業開始した就労移行支援ココエルの事業を引き継ぎ、「ゼロから身につく専門性と実践力」をコンセプトに障害のある人への就労支援サービスを提供しております。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

現状、障害のある人の中でも精神／発達／知的障害のある人の就職先は非常に限られており、「望んだ仕事に就けない」、「合わない仕事に就いたために長期の就労が困難である」等、いくつもの就労への課題がある。そのため、ジニアでは専門性と実践力を身に付けることで、高い就労力を実現させる就労支援をめざしている。

### 【具体的な取り組み】

ジニアでの就労支援は大きく分けて3つのステージで構成している。本発表では、就労までの3つのステージによる長期キャリアプラン形成についての発表を行う予定である。

1. 整える：（学びながら働き、こだわりと好きを見つける）
2. 鍛える：（こだわりと好きを価値ある能力に鍛える）
3. 磨く：（価値を磨き上げ、就労力を身につける）

### 【活動の成果と評価】

3段階に分けた支援では、B型事業と就労移行支援事業を組み合わせた長期支援プログラムを提供している。

就労移行支援は原則2年間しか利用できないという制約を、上記の多機能型事業所にすることで解決し、1人1人にあったキャリアロードマップを形成することを可能にした。さらに、時間をかけた心身の調整を行うことで、長期就労に向けた「心」と「体」の基盤づくりが成果として見えてきている。

### 【今後の課題】

就労力を身に付ける点において、整えるステージにおける心身の調整とともに、鍛えるステージにおける各個人の専門性の獲得が成果として見えてきているものの、就職活動における「実践力の見せ方」に課題がある。特に、自己理解と障害理解を深化させたいという自身の強み（専門性と実践力）をいかに就職先に伝えるかは、通常の面接を行うだけでは伝わりきらないと推定している。この課題を踏まえ、今後ジニアではこれらを証明する仕組みづくりを開発する予定である。

テーマ：創作的活動や生産的活動

## 利用者様の「やりたい」を見つける支援

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

生活支援員：松本 晃典

### ●事業所・サービスの紹介

紬「あけぼの」は【利用者様、スタッフ共に笑って自宅に帰る】の方針のもと、20歳から30歳代の利用者様が毎日元気いっぱい過ごされています。型染めでの商品作りやレクリエーション、外出、季節ごとのイベント、創作教室やお菓子作り等の様々な活動を通し、「明るく」「楽しく」過ごされています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

・日々の活動やイベントを通して利用者様の「やりたい」を見つける。

#### 【具体的な取り組み】

- ・さかいアートケーションに、発砲ウレタンボードに色染めをした綿棒をさした綿棒アートを応募した。
- ・コロナ禍よりの取り組みで、事業所をテーマパークにする紬SJを開催した。
- ・ショッピングモール等への外出で、利用者様自身が買いたい物、食べたい物を選んで買い物や外食をし、楽しんでいただいた。

#### 【活動の成果と評価】

さかいアートケーションの作品作りでは、利用者様一人一人が作品に対して「作り上げたい」という強い意識を持っていただくことができた。綿棒を切る、さすということにおいても自分がやると責任感を持って取り組んでいただけた。紬SJでは、支援員と利用者様が一緒にアトラクションや看板を作り上げ、共に楽しんでイベントを作り上げることができて、共にイベントを楽しむことに成功し利用者様のやりたいことを引き出せた。外出活動では、選ぶ楽しさを味わっていただけた。

#### 【今後の課題】

利用者様が本当にしたいこと、やる気が出ることといった「ニーズ」をしっかりと読み取り、支援員がそれを形として実現し、日々の生活を更に活気に満ちた生活にしていだけるようになる。

テーマ：地域との連携・就労への支援

# 「私は人と話すのが怖い」 対人恐怖を抱える方の支援ストーリー

株式会社inC インク

管理者：梶 兼

## ●事業所・サービスの紹介

生活訓練事業所「インク」は、障害がある方へ今後の自分らしい暮らしと一緒に考え、自己実現に向けた様々な選択肢やプログラムを提供しています。インクの4つの柱：①自立に向けて“できそう”から“できる”に変えていくサポート②将来へのステップアップに向けての選択肢③自分と他者への理解を深める交流時間④新たな自分の発見や自信へとつなげる地域貢献活動

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

注意欠陥・多動性障害（ADHD）があり、今まで対人関係を上手く構築できないことにトラウマを抱える20代の利用者Aさんのやりたいことの実現。社会的ひきこもりにある方への支援例として紹介させていただければと思います。

### 【具体的な取り組み】

- ・利用者Aさんが抱える対人関係課題（他人との距離感が分からない。一方的に話してしまう。）に対する支援。
- ・利用者Aさんの将来の目標と一緒に探していく意思決定支援。
- ・自身の得意なコトを活かして地域で活躍する経験を積むことで、自己肯定感の向上を期待。
- ・期間満了にあたり、次の支援者へとバトンを繋いでいく。

### 【活動の成果と評価】

- ・通所中に起こる対人関係の失敗体験・成功体験について、スタッフと日々振り返ることで自身の特徴の認識と対策を蓄積することができた。最終的には自身の取扱説明書を作成。
- ・自分の得意なコトを活かして地域から評価されることで自信をつけることができた。
- ・就労にチャレンジする意欲とエネルギーを持つことができた。

### 【今後の課題】

Aさんの課題：就労の場においても自身の特性の理解を忘れずに行動し人間関係を卒なくこなせるようにする。  
事業所の課題：社会的ひきこもりにある方の利用が増加傾向にある。本人にとって利用できる社会資源が少ないと感じているため、支援ノウハウを蓄積して事業所の支援レベルアップとネットワークの構築を進めたい。





2023年度  
さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発行  
堺市 健康福祉局

長寿社会部 長寿支援課  
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1  
TEL : 072-228-8347  
FAX : 072-228-8918  
E-mail : choshi@city.sakai.lg.jp

障害福祉部 障害支援課  
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1  
TEL : 072-228-7411  
FAX : 072-228-8918  
E-mail : shoen@city.sakai.lg.jp